

平成30年度（平成29年度事業）

教育委員会の事務事業点検評価報告書

平成30年12月

出水市教育委員会

1 はじめに

出水市教育委員会では、平成30年3月に策定された第二次出水市総合計画の基本方針である「郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり」に沿って健康で明るく、主体性・創造性・国際性豊かな市民の育成を目指して、生涯学習の観点から教育・文化・スポーツの振興を図っています。

本市教育委員会では、効果的な教育行政の推進に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、平成29年度に実施した重点施策のうち5つの事業について点検及び自己評価を実施し、教育事務点検評価会議の委員による外部評価、及び教育委員による最終評価を経て報告書としてまとめましたので、議会へ提出します。

2 教育委員会の事務の点検及び評価

(1) 対象とした施策 [] 内は担当課

シート1	学校施設等教育環境の整備・充実〔教育総務課〕	…………… P	3
シート2	学習指導の充実（学力向上）、教職員の資質向上〔学校教育課〕	… P	5
シート3	青少年教育の充実〔生涯学習課〕	…………… P	7
シート4	文化の振興〔文化財課〕	…………… P	9
シート5	研修活動の内容・方法の充実〔青年の家〕	…………… P	11

(2) 評価の方法

ア 担当課自己評価（一次評価）

事業計画・手段、達成目標及び実績等に基づき、担当課として、「社会適応性」、「経済性・効率性」、「目標達成度」の3つの観点から自己評価を行い、今後の方向性・改善点案等を明示しました。

イ 出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価

出水市教育事務点検評価会議を開催し、担当課のヒアリングから得られた情報に基づき、出水市教育事務点検評価会議委員5人から外部評価をいただき、その意見を集約し、掲載しました。

ウ 教育委員会総合評価

担当課の自己評価と出水市教育事務点検評価会議委員による外部評価に基づき、教育委員会総合評価を行いました。

【資料 1】 出水市教育事務点検評価会議委員

氏 名	所属及び職名等
佐 野 正 幸	市 P T A 連絡協議会代表（同理事）
肱 岡 重 幸	市文化協会代表（同会長）
税 所 司	市体育協会代表（同会長）
大久保 幸 男	出水地区高等学校長・養護学校長会代表（出水商業高等学校長）
池 田 猛	市校長協会代表（高尾野中学校長）

【資料 2】 観点別自己評価におけるランク

A	必要かつ十分にできている。 必然性・妥当性が十分にある。 必要かつ十分な効果・成果がある。
B	概ねできている。 必然性・妥当性が高い。 一定の効果・成果がある。 一部見直しが図れば、なおよい。
C	必然性・妥当性、効果・成果等、最低の水準は満たせているが、見直すべき部分も相当ある。
D	課題が相当あり、見直しが必要である。

平成30年度（平成29年度事業）事務事業点検評価シート

シート番号 1

1 基本事項

担当課： 教育総務課

施策名（重点）	学校施設等教育環境の整備・充実					
細施策名（努力点）	小中学校施設等の整備・充実					
主な事業名	屋内運動場等非構造部材耐震化事業 1 切通小学校屋内運動場耐震化事業 2 野田中学校屋内運動場耐震化事業 3 バスケットゴール点検業務委託					
目的（視点）	・学校施設の構造体（柱・梁等）の耐震化については、平成26年度に完了しているところであるが、近年の大規模な地震では天井材や照明器具等のいわゆる「非構造部材」の落下による被害が多数発生しているため、避難所として利用されている屋内運動場等の非構造部材について、年次的（平成29年度～32年度）に落下防止対策を講じる。					
総合計画上の位置付け	基本方針	歴史と文化の薫りが暮らしを彩る教育と住民自治のまちづくり				
	施策	義務教育の充実				
	細施策	施設設備の充実				
予算科目名・科目コード	小学校耐震補強事業費	10	02	03	006	01
	中学校耐震補強事業費	10	03	03	006	01

2 平成29年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

※1の「主な事業名」に挙げた事業ごとに記入

事業名	計画	実施状況・実績等
1 切通小学校屋内運動場耐震化事業	<p>【主な非構造部材の具体的な耐震化対策】</p> <p>(1) 吊り天井等 吊り天井ではないが、屋根の構造がPca（プレキャストコンクリート屋根版）であり、耐震診断の結果「Pca版の補強の必要はないが、版を受ける枕梁のコンクリートが落下する危険性」が指摘されていることから優先的に実施する。</p> <p>(2) 照明器具等 吊り下げ式：振れ止めを用いて小屋組鉄骨やRC躯体に緊結 電動昇降式：落下防止策がないためLED照明に交換</p> <p>(3) バスケットゴール バスケットゴールの新設工事、補強工事又は撤去工事等</p>	<p>完成日：平成29年10月31日 工事費：17,350千円 工事内容 ・枕梁内外クラック補修、落下防止措置 ・吊下式、壁面式バスケットゴールの撤去 ・出入口扉交換 ・入口スロープ改修 ・屋上防水改修 ・照明器具の振れ止め補強 ・天井塗装の補修</p>
2 野田中学校屋内運動場耐震化事業	<p>【上記切通小学校と同様】</p>	<p>完成日：平成29年11月2日 工事費：32,954千円 工事内容 ・枕梁内外クラック補修、落下防止措置 ・屋上防水改修 ・吊下式、壁面式バスケットゴールの撤去 ・壁面式バスケットゴールの新設 ・出入口スロープの改修 ・照明器具のLED化</p>
3 バスケットゴール点検業務委託	<p>バスケットゴールの耐用年数については、15～20年とされ大半の施設が耐用年数を超えている状況にある。現行の日本バスケットボール協会規格・仕様を満たさない場合は、落下防止対策を実施することとなっていることから、専門業者による点検を実施する。 (翌年度に必要な落下防止対策工事を行う)</p>	<p>完成日：平成29年9月29日 委託料：847,800円（5校分） 点検校：上場小、東出水小、下水流小、米ノ津中、高尾野中</p>

3 平成30年度の事業計画

事業名	内容
1 屋内運動場非構造部材耐震化事業	<p>上場小：壁面式バスケットゴールの交換、出入口扉の交換、照明器具落下防止措置等 東出水小：吊下式バスケットゴールの撤去、照明器具落下防止措置、出入口スロープの改修等 下水流小：吊下式バスケットゴールのワイヤー交換、照明器具のLED化、屋根防水改修等 米ノ津中：吊下式、壁面式バスケットゴール撤去、照明器具のLED化、落下防止措置（武道場）等 高尾野中：吊下式バスケットゴールワイヤー交換、照明器具のLED化、落下防止装置（武道場）等</p>
2 バスケットゴール点検業務委託	<p>平成30年度対象校：西出水小、米ノ津東小、米ノ津小、江内小、野田小、鶴荘学園前期、出水中（平成31年度対象校：大川内小、出水小、蕨島小、高尾野小、大川内中、江内中、鶴荘学園後期）</p>

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費						
	特定財源①					一般財源 ②	計①+②
	国庫支出金	県支出金	起債	その他	計		
29年度実績	11,990		36,300		48,290	2,862	51,152
30年度計画	19,562		59,800		79,362	4,278	83,640

5 平成29年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適 応 性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		
	評価	A	理由 学校施設は、未来を担う子供たちが集い、生き生きと学び活動する場であるとともに地震等の非常災害時には地域住民の避難所としても重要な役割を果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。
社会 適 応 性	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいのか。等		
	評価	A	理由 施設の整備は設置者（市）の義務である。
経 済 性 ・ 効 率 性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		
	評価	A	理由 国庫補助等の特定財源の確保を図った。
経 済 性 ・ 効 率 性	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		
	評価	A	理由 国庫補助事業であるため、事務については、随時県と協議しながら不備がないように行った。
目 標 達 成 度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		
	評価	A	理由 国が示している手引書に基づき耐震化工事を実施した。
目 標 達 成 度	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		
	評価	A	理由 計画どおりに達成し、屋内運動場の安全性が確保された。
備 考	なし		

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今 後 の 改 善 案 等 ・ 左 記 の 理 由	屋内運動場等における非構造部材の耐震化については、非常時の避難所としての機能もあるため、早急に対策するよう国から通知が出されている。 本市の屋内運動場においても、避難所に指定されているものも多いため、年次計画に基づき、早急に対策を講じる必要があると思われる。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<p>○通学路の危険なブロック塀に対しても、関係部署から指導又は対策をお願いしたい。</p> <p>○非常階段等も耐震化をお願いしたい。</p> <p>○地震に対して生徒も教職員も自分の身を守る意識を高めながら一緒になって学校側も取り組んでいきたい。</p>

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	・ 左 記 の 理 由 ・ 附 帯 意 見 等	担当課による一次評価のとおり、学校の屋内運動場は非常時の避難所として指定されているところも多く、また、子供たちにとっては生き生きと学び活動する場であることを考えると、当初の計画通りに実施することが必要であると思われる。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

1 基本事項

担当課： 学校教育課

施策名（重点）	学習指導の充実（学力向上）、教職員の資質向上					
細施策名（努力点）	学力の実態把握とその活用の推進、1単位時間の授業の充実、教職員研修の充実					
主な事業名	1 学力向上プロジェクト委員会 2 学力向上推進大会 3 指導力向上教育講演会					
目的（視点）	・鹿児島学習定着度調査及び全国学力学習状況調査の実態把握を行い、指導法改善及び個別指導の充実に努める。 ・学力向上プロジェクト委員会のモデル授業等の取組を通して、学力向上と教師の資質向上についての研究と実践の推進を図る。学力向上推進大会を通して、取組方法を共有し、学力向上に向けた指導の充実に図る。小中一貫校を設置し、小中連携を強化し、「つながる教育」の推進を図る。また、学校と保護者が、家庭教育の連携の在り方や、生活習慣等の諸課題の解決策等について一層の理解を深める。 ・小、中、高の教職員を対象に講演会を通し、見識や教養を身に付けさせ、資質向上を図る。					
総合計画上の位置付け	基本方針	郷土を愛し文化を伝え豊かな心を育むまちづくり				
	施策	学校教育の充実				
	細施策	学習指導の充実（学力向上）				
予算科目名・科目コード	教育研究研修費	10	01	03	002	01

2 平成29年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

※1の「主な事業名」に挙げた事業ごとに記入

事業名	計 画	実施状況・実績等
1 学力向上プロジェクト委員会	(1) 第1回学力向上プロジェクト委員会 ア 出水市の学力の現状 イ これまでの学力向上プロジェクト委員会の取組 ウ 学プロのグラウンドデザイン エ 各学校・教科等部会への依頼 オ 各学校の取組、今後の方向性	○4/13 学力向上プロジェクト委員会役員会 ○4/19 第1回学力向上プロジェクト委員会 ・H28鹿児島学習定着度調査の結果の公表 ・授業づくりの視点の説明 ・学プロ係分担 ・指導案（略案）の提示
	(2) 第1回モデル授業研修会 ア 新学習指導要領を踏まえた授業の在り方 イ ワークショップ型授業研究の実施	○7/5 東出水小 理科モデル授業実施 ・協働的な学習の授業モデルの研究 ・出版版ワークショップ型授業研究の実施
	(3) 第2回学力向上プロジェクト委員会 ア 学プロ各グループの今後の活動について イ ホームページ班、授業改善班、企画・連携班の活動内容	○9/12 第2回学力向上プロジェクト委員会 ・講師 鹿児島大学教育学部 高谷哲也 准教授 ・経費：報酬 15,000円、費用弁償 6,380円
	(4) 第2回モデル授業研修会 ア 新学習指導要領を踏まえた授業の在り方 イ ワークショップ型授業研究の実施	○11/16 米ノ津中 数学モデル授業実施 ・対話の活性化の在り方の研究 ・出版版ワークショップ型授業研究の実施
2 学力向上推進大会	(1) 第1回学力向上推進大会 ア 学力向上プロジェクト委員会の取組説明 イ 出水商業高校の学力向上の取組について ウ 家庭学習の取組発表 エ ワークショップ型グループ別協議	○5/18 学力向上プロジェクト委員会役員会 ○5/23 第1回学力向上推進大会 ・家庭学習の在り方の研究 ・事例発表（東出水小、大川内中） ・保護者との協議の実施
	(2) 第2回学力向上推進大会 ア モデル授業取組発表 イ 小中一貫教育について ウ 出水商業高校の取組報告 エ 家庭学習についての取組成果	○2/16 学力向上プロジェクト委員会役員会 ○2/21 第2回学力向上推進大会 ・米ノ津中 豊留教諭 実践発表 ・江内小 内野教諭 取組報告 ・保護者とのワークショップの実施
3 指導力向上教育講演会	(1) 学プロ委員会発表 (2) モデル授業実践発表 (3) 講演 ・変わる道德教育「考え、議論する道德科」への転換	○8/16 学力向上プロジェクト委員会役員会 ○8/18 教育講演会 ・東出水小 有水教諭 理科モデル授業発表 ・講師 県総合教育センター 橋口俊一 研究主事 ・経費：費用弁償 7,240円

3 平成30年度の事業計画

事業名	内 容
1 学力向上プロジェクト委員会	(1) 第1回学力向上プロジェクト委員会（H29鹿児島学習定着度調査結果報告、モデル授業研修会、ワークショップ研修会） (2) 第2回学力向上プロジェクト委員会（H30全国学力・学習状況調査結果報告、大学教授講話）
2 学力向上推進大会	(1) 第1回学力向上推進大会 (2) 第2回学力向上推進大会
3 教育講演会	講師：鹿児島国際大学国際文化学部 准教授 内山 仁 氏 予算額：報酬 21,000円、費用弁償 6,697円

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費						
	特定財源①					一般財源 ②	計①+②
	国庫支出金	県支出金	起債	その他	計		
29年度実績	0	0	0	0	0	29	29
30年度計画	0	0	0	0	0	28	28

5 平成29年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等	
	評価 A	理由 児童生徒の学力については、全国学力学習状況調査や鹿児島学習定着度調査など客観的な調査の公表によって、市民の関心も高くなっている。また、将来の日本を背負う子供たちの学力を向上させることは、学校の使命である。そのためにも、児童生徒の学力向上に直結する教員の資質向上や授業改善に取り組む事業は重要である。
社会 適応性	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいのか。等	
	評価 A	理由 教員の資質向上に関する事業は、市教育委員会の役目である。この事業を廃止した場合、教員の資質向上に関する研修が学校任せや本人任せになり、その結果児童生徒の学力向上があまり期待できない。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等	
	評価 A	理由 経費的にはあまり支出額が大きい事業である。なお、研修会等については、国や県の事業を積極的に活用し、教員の資質向上を図りたい。
経済性・ 効率性	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等	
	評価 A	理由 計画立案・内容の執行に関しては、学校現場の協力（学プロ役員会）を得ながら、計画的に実施することができた。また、予算執行についても、担当と連携しスムーズに行うことができた。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等	
	評価 A	理由 それぞれの活動を評価しながら実施することができた。さらに、教員にも児童生徒にもより高い目標を設定し、今後取り組んでいきたい。
目標達成度	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等	
	評価 B	理由 鹿児島学習定着度調査については、県平均を上回るようになった。全国学力学習状況調査についても、県平均並みである。教員の研修や学力向上へ取り組む意識改革ができた。また、モデル授業の提示により指導法改善にも繋がった。全国平均まで、あと少しのところまで達成できている。
備考	なし	

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/> 事業拡大を検討	今後左記の理由・改善案等	学力向上に非常に効果の高い事業であるので、今後とも内容を改善・工夫しながら継続して実施していきたい。
<input type="checkbox"/> 現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続		
<input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

<p>○出水市の取組は非常にレベルが高いと感じている。</p> <p>○商業高校も学力向上の研究指定を受け、全教科の公開授業を実施します。この取組も含めて評価してもらいたい。本校の教諭も今の授業ではダメだと考えさせられるぐらい小・中学校の英語の学力向上の効果がみられる。</p> <p>○この事業については、担当課による一次評価のとおり「改善して継続」していただきたい。</p>

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/> 事業拡大を検討	左記の理由・附帯意見等	鹿児島県の学力調査（定着度調査）は、県平均を上回っており、十分に成果が出ているものと思われるが、子供たちを取り巻く教育環境等は常に変化しており、それに対応し、かつ、さらに上を目指していく必要があると思われる。
<input type="checkbox"/> 現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続		
<input type="checkbox"/> 統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/> 廃止又は休止を検討		

1 基本事項

担当課： 生涯学習課

施策名（重点）	青少年教育の充実					
細施策名（努力点）	将来を担う人材育成					
主な事業名	青少年交流事業 (大韓民国順天市の中学生との相互派遣交流)					
目的（視点）	・姉妹都市盟約を締結している大韓民国順天市と青少年の相互交流を図ることによって、国際的視野を養うとともに、異なった文化を経験することで郷土の文化や歴史、社会を正しく理解し、地域のリーダーとなるべく人材を育成する。 ・2年間にわたり、相互交流等を行うことによって、出水市と順天市の市政発展を目指す。					
総合計画上の位置付け	基本方針	歴史と文化の薫りが暮らしを彩る教育と住民自治のまちづくり				
	施策	地域間交流・国際交流の推進				
	細施策	国際交流の拡充				
予算科目名・科目コード	青少年交流事業費	02	01	06	002	03

2 平成29年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

※1の「主な事業名」に挙げた事業ごとに記入

事業名	計画	実施状況・実績等
青少年交流事業 (大韓民国順天市の中学生との相互派遣交流)	2年間の相互交流事業であり、初年度に本市で順天市中学生を受入れし、次年度では順天市に本市中高生を派遣する。 平成29年度派遣（8月3日～6日、3泊4日） ・出水市中高生21人、引率者3人 ・事前研修会3回（派遣団間交流、語学研修）、結団式 ・派遣内容 順天湾や庭園見学、楽安邑城見学、民族衣装着付け体験、桃狩り体験、ホームステイ等 ・帰国報告会 ・事後研修会 ・海外体験発表（すこやかな青少年を育む集い） <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○受入れ時の交流内容 ・ホームステイ ・浴衣着付け・茶道体験 ・クレインパークいずみ見学 ・鶴翔祭踊り連参加 ・農家民泊体験 ・中学校訪問 ・島津太鼓体験 </div>	平成29年度派遣実績 （8月3日～6日、3泊4日） ・出水市中高生 定員21人（応募36人） 引率者3人 ・事前研修会3回 （派遣団間交流、語学研修）、結団式 ・派遣内容 順天湾や庭園見学、楽安邑城見学、民族衣装着付け体験、桃狩り体験、ホームステイ等 ・帰国報告会 ・事後研修会 ・海外体験発表 （すこやかな青少年を育む集い） ○事後アンケート結果 大変良かった76%（16人/21人） 良かった24%（5人/21人） 悪かった・どちらともいえない0% <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ○過年度実績 平成24年度 受入 順天市中学生17人、引率者4人 平成25年度 派遣 出水市中高生17人、引率者4人 平成26年度 受入 順天市中学生21人、引率者4人 平成27年度 派遣 出水市中高生21人、引率者3人 平成28年度 受入 順天市中学生21人、引率者3人 </div>

3 平成30年度の事業計画

事業名	内容
平成30年度 青少年交流事業	・本市受入 平成30年8月2日（木）～5日（日） ※実施済 ・順天市中学生13人、引率者2人 順天市生徒は2年間の交流が多いが、本市生徒は1年単位の交流が大半である。2年間の交流である場合、相互でホームステイを行うために家族ぐるみで相互交流を深めることが出来る。このため、募集人数を21人から12人に縮小し、2年間を通じた交流が可能な生徒の募集に努める。 ・内容 浴衣着付け茶道体験、麓歴史館見学、クレインパークいずみ見学、農家民泊体験、ホームステイ

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費						
	特定財源①					一般財源 ②	計①+②
	国庫支出金	県支出金	起債	その他	計		
29年度実績	0	0	0	0	0	1,738	1,738
30年度計画	0	0	0	0	0	688	688

5 平成29年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適 応 性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		
	評価	A	理由 海外に行くことが初めての生徒が多く、青少年が直接肌で感じられる海外経験をすることによって、今後の国際的視野を広げることができ、また、異なった文化を経験することで郷土の文化や歴史、社会を正しく理解し、地域のリーダーとなるべく人材の育成につながる取り組みである。
社会 適 応 性	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいのか。等		
	評価	B	理由 本市が姉妹都市盟約を結んでいる大韓民国順天市との青少年交流を実施することで、姉妹都市同士の文化や歴史を正しく理解し交流を深めることができる。
経 済 性 ・ 効 率 性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		
	評価	A	理由 姉妹都市盟約締結時に、派遣時の順天市までの交通費は本市負担、順天市での滞在費は順天市負担と定めている。また、参加者負担は、パスポート取得経費や海外旅費保険料、ユニフォーム代であり、最小限の負担に抑えている。
経 済 性 ・ 効 率 性	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		
	評価	A	理由 これまでの派遣と同様、順天市の計らいによって、釜山空港まで公用バスで迎えに来てもらい、順天市までの借り上げバス代が不要になっている。また、本市の国際交流推進員をとおり、計画を行っているため、随時連絡を取って計画を行うことが出来ている。
目 標 達 成 度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		
	評価	A	理由 参加した中高生の事後アンケート調査結果では満足度が高く、海外の文化や歴史に直接触れることができ良い経験になっている。
目 標 達 成 度	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		
	評価	B	理由 前年の受入れ時に、ホストファミリーとして参加した生徒が、派遣にも参加する場合は、前年受入れた生徒の家庭でホームステイを実施、2年間にわたる交流を行うことによって、相互理解が深まり家族ぐるみの交流に発展しているが出水市生徒にとって、2年間の参加が難しい状況である。
備 考	なし		

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今 後 の 改 善 案 等 ・ 左 記 の 理 由	参加者人数をこれまでの21人から12人に縮小し、募集の段階で2年間の交流が可能な生徒を募集する。 順天市の方から時期の変更の希望があったため、実施時期や交流内容、学校プログラムへの追加等の検討を行う必要がある。
<input type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

○この事業については、子供達にとっての評価は非常に良いが、今後のあり方として、受け入れ態勢なりいろんな問題等を加味すれば、検討の余地があるのではないか。

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	・ 左 記 の 理 由 ・ 附 帯 意 見 等	事業の目的からすると、3泊4日の日程の中でホームステイ先に1泊しかないというのは、効果があるのか疑問である。事業制度のために参加者（受入者）が少ないということであれば、制度の見直しも必要と思われるが、姉妹都市の交流については、他の分野（産業等）でもできないかということを含めて検討すべきである。
<input type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input checked="" type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

1 基本事項

担当課： 文化財課

施策名（重点）	文化の振興					
細施策名（努力点）	文化財の保存・活用					
主な事業名	出水麓歴史館の運営 1 広報宣伝 2 オープン式典 3 管理運営の充実					
目的（視点）	・麓地区で、歴史的風致の街並みと同時に麓武家屋敷を中心とした歴史資料及び市内の歴史を保存・研究、公開するため出水麓歴史館を運営する。 ・出水麓歴史館は、地区住民のコミュニティ育成の拠点とし、市内外の児童・生徒の歴史学習施設として活用を図る。					
総合計画上の位置付け	歴史と文化の薫りが暮らしを彩る教育と住民自治のまちづくり					
	施策	文化の振興				
	細施策	文化財の保存・活用				
予算科目名・科目コード	文化振興費出水麓歴史館一般管理費	10	06	03	013	01

2 平成29年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

※1の「主な事業名」に挙げた事業ごとに記入

事業名	計画	実施状況・実績等
出水麓歴史館の運営	【目標：年間入館者数20,000人】 (月平均1,666人) ※5月1日開館	【実績：入館者数21,101人】 (月平均1,918人) 3月31日集計
1 広報宣伝	多言語リーフレットの作製 400千円	合計8,000部作製（英語2,400、韓国1,200、繁体3,600、簡体800）
2 オープン式典	(1) 関係者招待	約140人参加（5月1日開催）
	(2) 名称募集当選者に記念品贈呈	当選者の計6人に記念品贈呈
	(3) イベント実施	出水小学校6年生の出水兵児修養掟読上げ
3 管理運営の充実	(1) 社会教育指導員2人、受付案内人2人を配置	計4人で日々の勤務者を計画的に組み、1日当たり2～3人の勤務体制で館の運営を行った。本庁文化財課職員にも兼務命令を発し、必要に応じて館の勤務に従事した。
	(2) 各種業務委託 警備保障 195千円 消防設備点検 76千円 館内清掃 750千円 生垣等せん定 60千円	・機械警備は29年3月から開始 ・年2回の専門業者による消防点検 ・トイレ清掃、床ワックスかけ ・せん定年2回、薬剤散布1回
	(3) 職員の研修等	防火管理者研修と博物館協会総会に社会教育指導員1人出席
	(4) 主催事業（企画展等の開催）	「出水麓遺跡展」 述べ1,334人 「出水に残る刀展」 述べ2,261人 「出水の麓展」 述べ5,942人 「なんこ道場、なんこ王決定戦」 道場308人、決定戦50人参加
	(5) 他者事業協賛夜間開館	竹添邸夕涼み会 述べ7人（2日間） いずみマチ・テラス 述べ34人（2日間）

3 平成30年度の事業計画

事業名	内容
出水麓歴史館運営	・第1回企画展「薩摩日置流腰矢指矢展」 4/19～6/19（61日間）開催。延べ入場者数3,806人 ・明治維新150周年記念特別展示「出水麓と西郷隆盛」5/4～6/19（46日間）開催。延べ入場者数2,896人 ・夏休み「なんこ道場」及び「なんこ王決定戦」8/26開催。決定戦兵児の部7人、二才の部16人参加 ・竹添邸夕涼み会及びシラス像ライトアップ協賛夜間開館。8/13・14 午後9時まで開館 113人来館 ・共催講演会「出水麓歴史講座」開催。 28人参加 ・9/18・19 くん蒸に伴う臨時休館 ・いずみマチ・テラス協賛夜間開館 11/1～11/3 午後9時まで開館 ・第2回企画展「威徳天神三十六歌仙展」 11月22日～2月19日（88日間）

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費						
	特定財源①					一般財源 ②	計①+②
	国庫支出金	県支出金	起債	その他	計		
29年度実績				3,986	3,986	5,924	9,910
30年度計画				3,769	3,769	8,464	12,233

5 平成29年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適 応 性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等	評価 B	理由 長年にわたり地元内外から要望のあった、出水麓武家屋敷群の散策拠点施設の開館である。近年は国内の観光客に加え、韓国・中国や東南アジアからの外国人観光客も増加していることに対し、英語や多言語による館内の案内も行っていることから現状に適していると考えられる。 ただし、展示資料ごとの多言語解説は無く、十分な展示案内とは言えないことが課題である。
	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいのか。等	評価 A	理由 県内でも近世の歴史的風致の街並みを多く残す地区は少なく、そのなかでも最大の規模を誇る出水麓は、出水市が全国に誇るべき文化財と考えられることから、本事業は出水市が率先して行う必要のある事業と考える。
経済性・ 効 率 性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等	評価 B	理由 主なコストは人件費と光熱水費である。館の運営を来館者に対し快適に効率よく行うために最低必要なコストであるが、館での物品販売等による収入増を考える余地がある。
	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等	評価 A	理由 職員が交代制で日に2～3人の配置で勤務を行っている。毎月に出勤計画を作成しており、来館者が多く予想される期間等には、職員を多く配置するなど計画的・効率的な運営体制及び事務実施を行っている。
目 標 達 成 度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等	評価 A	理由 開館初年度は、近隣の公開武家屋敷の年間来館者数を参考に年間2万人の来館者を目標とした。年々減少する傾向がある中で、やや高い目標設定だったが、減少傾向を止め、増加に転じることを目指す上で適切な目標設定だった。
	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等	評価 A	理由 開館初年度は、企画展を計3回、夏休み期間にイベントを1回、他機関のイベントに協賛し開館時間を延長し、来館者数の増加・確保に努め、年間来館者目標の2万人を超える21,101人を達成したことで成果は認められたと考える。
備 考	なし		

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今後 左 記 の 改 善 案 等 の 理 由	初年度の入館者数の目標は達成できた。その後も過去5年間の竹添邸入館者数の平均を上回るペースで推移している。企画展やイベントについては、魅力あるテーマを設定し、内容を充実させ、入館者増につながる館の運営を継続していく。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

○税所邸や竹添邸に比べ、展示物が少ないと感じる。刀・甲冑等いろいろなものを揃えていただきたい。この予算では刀・甲冑等いろいろ買い揃えるためには不足しているため、予算額についても検討してもらいたい。	
○この事業については、担当課による一次評価のとおり「現行のまま継続」していただきたい。	

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	左 記 の 理 由 ・ 附 帯 意 見 等	外部委員からの意見にもあるとおり、展示物については少ないと思われるが、担当課による様々な企画展やイベントにより来館者数は当初の目標を達成できると思われるので、今後もこれまで同様努力していただきたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

1 基本事項

担当課： 青年の家

施策名（重点）	研修活動の内容・方法の充実					
細施策名（努力点）	郷土「出水」のよさを生かした特色ある主催事業や研修プログラムの展開					
主な事業名	四季の自然まつり					
目的（視点）	自然に恵まれた青年の家及び周辺の環境を生かし、家族や友達、参加者同士のふれあいを深めながら、自然を活用した様々な活動（野外活動・創作活動等）を通して、自然に触れ、自然で遊び、自然を学ぶことにより、郷土のよさを知り、郷土を愛する心を培う。					
総合計画上の位置付け	基本方針	歴史と文化の薫りが暮らしを彩る教育と住民自治のまちづくり				
	施策	社会教育の充実				
	細施策	青少年教育の充実				
予算科目名・科目コード	主催事業（自然まつり）	10	06	05	003	01

2 平成29年度の事業実施状況【計画・手段・実績等】

※1の「主な事業名」に挙げた事業ごとに記入

事業名	計画	実施状況・実績等																				
四季の自然まつり	① 春の自然まつり（第15回 チャレンジ・ラリー） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">4月29日（土） 昭和の日</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目標</td> <td>参加者</td> <td>60組 240人</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>40人</td> </tr> </table>	期日	4月29日（土） 昭和の日		目的	オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。		目標	参加者	60組 240人	ボランティア	40人	※毎年恒例の野田女子高校が企画した体験コーナーでは、「元氣よく盛り上げてくれるので、とても楽しい」と参加者から好評である。 <table border="1"> <tr> <td>応募者数</td> <td>54組</td> <td>218</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>49組</td> <td>193</td> </tr> <tr> <td>ボランティア</td> <td>54人</td> <td>(高校生750人・市74人・補助員10人)</td> </tr> </table>	応募者数	54組	218	参加者数	49組	193	ボランティア	54人	(高校生750人・市74人・補助員10人)
	期日	4月29日（土） 昭和の日																				
	目的	オリエンテーリング形式で各種ゲームを家族や友人と楽しむ。																				
	目標	参加者	60組 240人																			
ボランティア		40人																				
応募者数	54組	218																				
参加者数	49組	193																				
ボランティア	54人	(高校生750人・市74人・補助員10人)																				
② 夏の自然まつり（ファミリーキャンプ） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">7月16日（日）・8月12日（土）～13日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">幼児のいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">目標</td> <td>参加者</td> <td>先着 25組</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1day15組45人 2day10組40人 合計85人</td> </tr> </table>	期日	7月16日（日）・8月12日（土）～13日（日）		目的	幼児のいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。		目標	参加者	先着 25組		1day15組45人 2day10組40人 合計85人	※野田女子高校生徒による緑陰読書を行った。 <table border="1"> <tr> <td>1day</td> <td>15組</td> <td>58人</td> </tr> <tr> <td>2day</td> <td>7組</td> <td>25人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>22組</td> <td>83人</td> </tr> </table>	1day	15組	58人	2day	7組	25人	合計	22組	83人	
期日	7月16日（日）・8月12日（土）～13日（日）																					
目的	幼児のいる家族を対象に、野外炊飯を親子で行うことにより家族の絆を深める。																					
目標	参加者	先着 25組																				
		1day15組45人 2day10組40人 合計85人																				
1day	15組	58人																				
2day	7組	25人																				
合計	22組	83人																				
③ 秋の自然まつり（第16回 青年の家フェスティバル） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">10月15日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>参加者</td> <td>250人</td> </tr> </table>	期日	10月15日（日）		目的	家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。		目標	参加者	250人	※県内8施設協議会連携事業「国公立青少年社会教育施設ふれあいデー」と共同開催したため、本所以外のクラフト活動も体験でき、貴重な体験となった。 <table border="1"> <tr> <td>参加者数</td> <td>308人</td> </tr> <tr> <td>作成数</td> <td>70個</td> </tr> </table>	参加者数	308人	作成数	70個								
期日	10月15日（日）																					
目的	家族や友達と一緒に青年の家でできるクラフト活動を楽しむ。																					
目標	参加者	250人																				
参加者数	308人																					
作成数	70個																					
④ 冬の自然まつり（正月&クリスマスを手作りで） <table border="1"> <tr> <td>期日</td> <td colspan="2">12月17日（日）</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td colspan="2">自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>参加者</td> <td>260人</td> </tr> </table>	期日	12月17日（日）		目的	自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。		目標	参加者	260人	※ミニ門松、洋風リース、和風リース、しめなわ、和だこ（各コース製作個数限定）作りを実施した。 <table border="1"> <tr> <td>参加者数</td> <td>254人</td> </tr> <tr> <td>作成数</td> <td>138個</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>自然まつり合計</td> <td>838人</td> </tr> </table>	参加者数	254人	作成数	138個	自然まつり合計	838人						
期日	12月17日（日）																					
目的	自然素材を生かして、正月やクリスマスの飾りを手作りする。																					
目標	参加者	260人																				
参加者数	254人																					
作成数	138個																					
自然まつり合計	838人																					

3 平成30年度の事業計画

事業名	内容
四季の自然まつり	平成29年度の事業を継続する。高校生ボランティアや市民ボランティアを積極的に活用することにより、参加者への支援を更に手厚くし、参加者の満足度を高める。また、市内各高校との連携を強化し、各自然まつりの中に高校生が企画・立案した体験コーナーの設置や展示コーナーを設定することにより、事業の充実を図るとともに、青少年の育成の充実を図る。さらに、各種関係機関との連携を密に図り、魅力的な事業内容となるように企画運営の工夫に努める。

4 コスト 単位:千円

区分 年度	事業費						
	特定財源①					一般財源 ②	計①+②
	国庫支出金	県支出金	起債	その他	計		
29年度実績				87	87	178	265
30年度計画				107	107	174	281

5 平成29年度事業に対する担当課による観点別評価

社会 適応性	市民ニーズや社会経済情勢の現状に適した事業であるか。等		理由 四季の自然環境や自然素材を生かした本事業は、趣向を凝らし充実した内容となっている。また、参加者アンケートからも90%の参加者が「とても満足」、「満足」の回答を得ており、家族及び友達とのふれあいを深めるいい機会であると考えている。
	市が行う必要のある事業であるか。市が事業を廃止・休止した場合、影響が大きいのか。等		理由 出水のよさを知り、郷土を愛する子どもの育成は、将来の出水市にとっても欠かせないことである。また、高校生を事業の中に参画させることにより、将来の地域作りを担う人材育成を図っている点から意義深い事業と考える。また、家族のふれあいの機会を提供することは、家庭教育の更なる充実を図る点から効果的にとらえる。総合的に学校教育を補完する施設の事業として必要であると考えている。
経済性・ 効率性	コストの縮減又は経済的な支出がなされたか。類似事業との統合は図れないか。受益者負担は適切か。等		理由 青年の家の特徴（自然・環境等）を生かしたり、季節感を味わったりする事業であり、他事業とは統合できないものであると考えている。 また、材料費100円程度の受益者負担は、妥当であると考えている。
	事務は計画的・効率的に行われたか。事務改善又は事業実施上の課題の解決を図ることができたか。等		理由 毎年、ボランティアスタッフや参加者のアンケートを取り、その結果をもとに所内会議を開いて今年度の計画を立てている。前年度の課題解決が図られるような計画を立案し、創意工夫しながら事業を実施している。
目標達成度	活動指標（目標の水準）は適切だったか。成果を向上させる余地はなかったか。等		理由 天候にも左右される事業ではあるが、毎回参加者数は、目標の80%から90%は達成できているので活動指標は適切であったと思う。事業によっては、キャンセル待ちもあるものもあり、より多くの市民が参加できるよう内容も含め検討する必要がある。また、効果的な広報活動を行うことで、毎回目標人数は確保していきたい。
	計画どおりに目的を達成できたか。成果が認められたか。等		理由 参加者アンケートの満足度からも成果があったと思われる。リピーター（リピーター率54%）はもちろん、新規の参加者も多く、今後さらに、参加者の意見・要望を取り入れながら、魅力ある事業にしていきたい。また、社会教育関係機関・団体とも連携を図り、日常的な広報活動を推進する。
備考	なし		

6 今後の方向性・改善案等（担当課による一次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	今後 左記の 改善案等 理由	参加者の感想を見ても、ほぼ全員が満足されていることから、引き続き本事業を進めていく。また、児童生徒の体験活動の充実を図るために、さらに内容の見直し・充実を図りながら、参加者の拡充を目指すとともに青少年教育の成果も高めていきたい。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		

7 出水市教育事務点検評価会議からの意見・助言（外部評価）

○地元の協力を得ながら自然に恵まれた立地条件を生かして、タケノコ掘り体験等の季節を感じる体験活動を検討してもらいたい。
○この事業については、季節にあった一つの行事のあり方を検討しながら、現行のまま継続していただきたい。

8 教育委員会委員による総合評価・担当課自己評価に対する意見（二次評価）

<input type="checkbox"/>	事業拡大を検討	・左記の理由 附帯意見等	青年の家の特徴である自然環境を生かし、その季節に合った事業を実施していると思われる。また、事業を実施するにあたり、広報活動や高校生を含めたボランティアを積極的に活用する等など、参加者がより楽しみ、満足できるための工夫がみられる。
<input checked="" type="checkbox"/>	現行のまま継続		
<input type="checkbox"/>	改善して継続		
<input type="checkbox"/>	統合・縮小を検討		
<input type="checkbox"/>	廃止又は休止を検討		